

月影

平成十六年九月一日発行（第七号）

紫雲山 常林院

かきし
彼岸にいたれ

春と秋、昼夜の長さが等しい時節、真西に沈む太陽が一年で一番大きく見え、西方極楽浄土が最も近くなったように感じられます。
さいほうごくらくじょうど

昔から日本人はこの時期の一週間を「お彼岸」といって、先祖供養や、極楽にいけるように修養しゅうようをしてきました。

彼岸とは、向こう岸、つまり悟りの世界である極楽を意味し、私たちが住んでいる悩み多き世界のことは此岸しがんと言います。そして、彼岸と此岸の間には大きな隔へだたりがあり、渡ることは容易なことでありません。しかし、お経の中には、彼岸への渡る方法が記されています。その方法とは、次の六つの実践をすればよいと説とかれています。

- ① 布施ふせ・・・財や親切を施ほどこすこと。
- ② 持戒じかい・・・自分自身を戒いましめ、他人に迷惑をかけないこと。
- ③ 忍辱にんにく・・・不平不満を言わない。腹を立てないこと。
- ④ 精進しょうじん・・・正しい目標に向かって努力し、自分を磨みがくこと。
- ⑤ 禅定ぜんじょう・・・心を静たまかに保ち、反省を忘れないこと。

⑥ 智慧・・物事の本質を見極める心、正しい判断力。

これら六つをを「六波羅蜜」と言います。この六つの実践をすることによって、私たちは彼岸の世界へ行くことができるとお釈迦さまはお経の中で教えています。

ひがんえほうよう ほうわ
彼岸会法要と法話の御案内

平成十六年九月二十五日（土）

午後一時より 彼岸会法要

午後二時より 法話 安養寺住職 澤田教英師



皆様お誘い合わせの上、お気軽に御参詣下さい。
※御先祖供養御希望の方は当日までにお申し込み下さい。

お月見会（尺八演奏会）

・日時 平成十六年九月十九日（日）

・場所 常林院本堂にて 午後四時～八時頃

主催 糸の会（島田道雪 雅楽恭）

※出入り自由です。お気軽にお越し下さい。